

1分動画インフォグラフィックスにおける情報を伝える為の要素の抽出と応用

Extraction and Application of Elements for Conveying Information in 1-Minute Video Infographics

才木 稔太

指導教員 菊池 司

東京工科大学 メディア学部 メディア学科 菊池研究室

キーワード：インフォグラフィックス，映像，情報

1. 序論

これからの時代において情報を伝える際に、短い時間の中で分かりやすく他者に情報を伝えることが必要ではないかと私は考えている。そして私がこういった考えに至ったのはファスト映画という動画について知ったことがキッカケであった。

ファスト映画は10分前後で映画の全体的なストーリーを明かす動画で、動画共有サービスのYouTubeでは一時期大人気のジャンルであった。しかしファスト映画は著作権者からの許諾を得ずに映像を無断で使用した違法動画で、実際に逮捕者も出ており次第にその姿を消した。ファスト映画を作成してYouTubeに投稿をしていた20代の男性は『告白』(中島哲也監督)のファスト映画は100万回再生を超えていた。』とメディアの取材で述べており[1]、著作権侵害の違法動画ではあるものの、ファスト映画は非常に人気だったと考えられる。

更に現在のYouTubeにおける人気コンテンツ群は30秒から1分間の「ショート動画」であり、長時間の消費を必要とするコンテンツと比べて「短時間の中で消費できるコンテンツ」に大きな需要があることが伺える。

よって私は”インフォグラフィックス”という複雑な内容やイメージしづらい物事の仕組みなどを、把握・整理し、視覚的な表現で、他の人に情報を分かりやすく伝えるグラフィックデザイン[2]を用いて、短時間で情報を分かりやすく伝えられ

る映像コンテンツの実装を提案する。

インフォグラフィックスを採用した理由は表現の幅が広く、様々な分野での活用が可能であり、これからの社会で情報を伝える際に非常に重要な手法になっていくと考えているからである。

本研究は複数の文献調査や評価実験を通してインフォグラフィックスにおける「情報を伝える為の要素」を主観的と客観的な視点から明確に抽出する。そして研究成果として抽出した要素を応用し、短時間で情報を分かりやすく伝えられる映像コンテンツ映像コンテンツを実装することが本研究の目的となる。

2. 関連研究

1つ目は埴生孝慈氏と尚泰氏による「関連の発見を促すストーリー年表インフォグラフィックスの制作と評価」である。ドラマ「踊る大捜査線」の時系列や隠された伏線を視覚化したインフォグラフィックスを制作しており、そして複数人を対象にグラフィックスによる評価付けなどの実験を行っていることから本研究と関連しているのではないかと考えている[3]。

2つ目は呉子昕氏と牛尾剛聰氏による「料理レシピからのインフォグラフィックスの自動生成のための基礎的検討」である。文字だけの情報で分かりにくい投稿型レシピの課題を解消する為に、料理の手順をグラフィックスで表現しており、複雑な

情報を分かりやすく視覚化している部分が本研究と関連しているのではないかと考えている[4]。

3. 研究手法

まずは作成するインフォグラフィックスの映像コンテンツの題材を「2025 年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」に決定し、その情報を 1 分間で伝えるインフォグラフィックスの映像コンテンツ(以降は 1 分動画インフォグラフィックス A と呼称する)を Adobe Illustrator・Adobe After Effect・Adobe Premiere Pro を用いて作成した。

そして 1 分動画インフォグラフィックス A の評価実験を行う際に回答するアンケートを作成したところまでが現段階における本研究の進行状況である。よって次はこれから行う予定の評価実験の手法を紹介する。

最初に複数人が 1 分動画インフォグラフィックス A を鑑賞し、鑑賞後に作成したアンケート調査に回答する。そしてアンケート調査の回答データを基に、複数パターンの実験映像を制作し更なる評価実験を行い追求することで、インフォグラフィックスにおける「情報を伝える為の要素」を主観的と客観的な視点から明確に抽出する。そして最終的な研究成果として抽出した「情報を伝える為の要素」を応用し、短時間で情報を分かりやすく伝えられる映像コンテンツ映像コンテンツを実装する。

4. 結論

本研究では関連研究やインフォグラフィックスに関する調査・分析を行い、「2025 年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」の情報を伝えるインフォグラフィックスの映像コンテンツを作成する過程を通して、短い時間の中で情報を分かりやすく伝えるという作業は決して一筋縄ではいかないことを感じた。

そして大学の図書館などでインフォグラフィックスの文献調査を行った際にグラフィクデザイナーの木村博之氏による著書から[2]、インフォグラフィックスを作成する際の 5 つの要素『見る人の

目と心を引き付ける「Attractive」， 伝えたい情報を見確にする「Clear」， 必要な情報だけ簡略する「Simple」， 目の流れに沿う「Eye」， 文字がなくても理解させる「Wordless』を発見することができた。これらの要素はインフォグラフィックスにおける「情報を伝える為の要素」を主観的と客観的な視点から明確に抽出できる大きな手掛けになると思っている。

一方で本研究には不透明な箇所がいくつか存在しているところが本研究の反省点だと考えている。よってこれからは研究の進行状況を加速させてていき、次のフェーズへと移行していくことで不透明な箇所を明確にしていく必要があると強く感じた。

更に本研究の質を深める為にも更なる関連研究や文献の調査・分析を行っていきたいと考えている。

5. 参考文献

- [1] Yahoo ニュース, 『ファスト映画で 100 万再生、投稿者が告白「違法と知らず」「非日常系の作品が向いている』, 2022/08/01,
<https://news.yahoo.co.jp/articles/dda061763823a4957b68a2cf89bff66d03bac06f>
- [2] 木村 博之, 「インフォグラフィックス 情報をデザインする視点と表現」, 誠文堂新光社, 2010
- [3] 塩生 孝慈, 尚 泰, 「関連の発見を促すストーリー年表インフォグラフィックスの制作と評価」, 図書館情報メディア研究第 9 卷 1 号 65~75 ページ, 2011
- [4] 吳 子昕, 牛尾 剛聰, 「料理レシピからのインフォグラフィックスの自動生成のための基礎的検討」, 九州大学大学院芸術工学府, 九州大学大学院芸術工学研究院, DEIM2020 B8-1(day2 p15)